

第 8 回 APRU マルチハザードサマースクールを開催しました（2023/7/24-27）

テーマ：国際連携、APRU, マルチハザード
場 所：東北大学災害科学国際研究所

2023 年 7 月 24 - 27 日の 4 日間にわたり、第 8 回 APRU マルチハザードサマースクールが当研究所にて開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2019 年 7 月のサマースクール対面開催を最後に、2020 - 2022 年の 3 年間はオンライン形式で行ってきましたが、今年は 4 年ぶりの対面開催となりました。参加者・講師を含め、13 の国と地域の国籍をもつ 43 名が出席しました。

開会式では、大野英男東北大学総長、アドリアーナ・ロハス APRU ネットワーク・学生プログラム担当シニアディレクター、栗山進一所長から開会の挨拶がありました。

初日は映画「大津波」の上映もあり、初日および 2 日目には当研究所の教員が、東日本大震災からの教訓や経験をもとに、都市計画、震災遺構、ヘルスと防災、歴史資料保存などの様々な観点から講義を行いました。各教員の講義タイトルは以下の通りです。

- 村尾修教授（国際防災戦略研究分野）
「Recovery from the 2011 Great East Japan Earthquake and Challenges for the Future」
- ユリア・ゲルスタ助教（災害文化アーカイブ研究分野）
「Whose lessons do we learn? 3.11 and Disaster Memory」
- 江川新一教授（災害医療国際協力学分野）
「Health management in disaster」
- ジョン・モリス特任教授（客員）（災害文化アーカイブ研究分野）・上山眞知子特任教授（客員）（歴史文化遺産保全学分野）・蝦名裕一准教授（災害文化アーカイブ研究分野）
「The human dimension in disaster research: Case studies of history and interdisciplinary collaboration to benefit everyone」
- 泉貴子教授（国際防災戦略研究分野）
「Role of stakeholders in disaster risk reduction」

2 日目の午前中には、多賀城市、国際 NGO（CWS Japan）から復興の様子や防災におけるそれぞれの役割について学び、午後はグループワークを行いました。グループワークでは、メンバー同士が各人の研究についてグループ内で発表・共有を行い、その後のグループ発表により、参加者全員にそれぞれの研究内容が共有されました。

3 日目は、地震に関する最新研究として、カリフォルニア大学デービス校、京都大学、東京大学の地震研究の専門家から講義を受けました。午後は、グループワークが行われ、グループメンバーのそれぞれの研究を活かして、どのような地球課題解決に貢献ができるか、また、どのように共同研究を実施できるか、について議論しました。

最終日の巡検では、東松島市震災復興伝承館、石巻市震災遺構門脇小学校、石巻市門脇本間家土蔵などを視察し、東日本大震災からの復興や、震災遺構について学びました。

参加者からは、「サマースクールで様々な防災分野に関する講義が受講できたことは、大変有意義であった」「参加者同士が異なる災害研究について紹介・議論することができ、勉強になった」などのフィードバックがありました。参加者からの意見やアドバイスをもとに、来年のサマースクールのプログラムをさらに充実させていきたいと考えています。



大野総長の挨拶



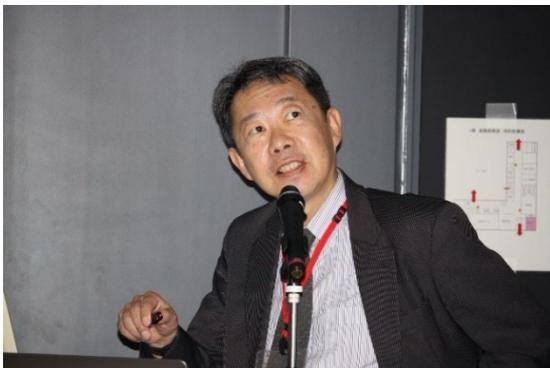
開会式での全体写真



栗山所長の挨拶



ロハス APRU シニアディレクターの挨拶



村尾教授



ゲルスタ助教

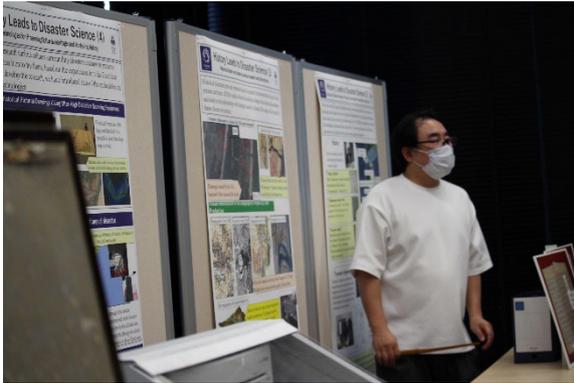


江川教授



モリス特任教授（客員）（左）と
上山特任教授（客員）

（次頁へつづく）



蝦名准教授



泉教授



講義の様子



質疑応答



グループワーク



グループワーク



東松島市復興伝承館



石巻震災遺構門脇小学校